

RCJ クエスト 2016 in 高萩 参加報告書



ボーイスカウト岩手連盟

釜石第2団

千田 恵

盛岡第5団

柳澤 彩紀

//

加藤 大貴

もくじ

1. 基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
 - 1.1. RCJ クエストとは
 - 1.2. 岩手連盟からの参加者

2. 生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
 - 2.1. 生活班について
 - 2.2. 高萩スカウトフィールドの状況

3. プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.6
 - 3.1. オープニングナイト
 - 3.2. 開拓プログラム
 - 3.3. ローバーフェス

4. 感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.11

1. 基本情報

1.1. RCJ クエストとは

日本連盟において、ローバースカウト年代（現行規程では 18 歳～25 歳）を対象とした野営行事は、2005 年に山梨県・山中野営場で開催されたスカウトムート 2005 を最後に、11 年間開催されてこなかった。「ムート」(moot) とは、世界スカウトムート(4 年に 1 回、次回は 2017 年夏アイスランドで開催) など、ローバー年代の野営大会を意味する言葉として世界的に使われている単語である。

昨年度秋に静岡県で開催された RCJ フォーラム 2015 では、ワールドカフェ形式のもとたくさんの分科会があった。その中に、「ローバームート」の分科会があり、そこに参加した多くのローバースカウトが、「ムートが復活したら行きたい」という気持ちを持っていた。当該年度の RCJ 運営委員のほとんどはそのフォーラムに参加しており、そうした生の声に触発されたことによって、国内のローバームートの復活に着手し始めた。

ノウハウがほとんど無いという事情などから、過去のムートのような規模・期間の大会を実施することは難しいと判断し、比較的短い野営行事を開催しようということになった。そして、日本連盟の新たな野営場である高萩スカウトフィールドの開拓をメインプログラムに据えるという案が出され、実施に向けて本格的に動き出した。企画は当時の RCJ 運営委員会だが、その後組織された実行委員会によって「クエスト」の名がつけられ、実施の計画が練られた。

1.2. 岩手連盟からの参加者

今回、岩手連盟からは2つの団から3名のローバースカウトが参加した。それぞれの参加したきっかけ・理由も紹介する。

- 千田 恵（右、釜石第2団）
多くの人と交流し、釜石2団を全国にアピールしたいと思った
- 柳澤 彩紀（中央、盛岡第5団）
昨年度のRCJフォーラムは実行委員として参加し、それに続くイベントであるこのRCJクエストには参加者として参加したかった
- 加藤 大貴（左、盛岡第5団）
クエストの企画をした昨年度のRCJ運営委員であり、そして今年度は議長なので、RCJの名を冠するこのクエストには是非参加したかった

こうした全国行事に盛岡5団以外のローバースカウトが参加するのはここ数年では初のことである。登録数は盛岡第5団が多数を占める岩手連盟のローバースカウトであるが、今後もこのように盛岡第5団以外のローバースカウトもこうした行事に参加できるような土台作りをしていきたい。



左から加藤、柳澤、千田

2. 生活

2.1. 生活班について

このRCJクエストでは、生活班という班を構成して野営をした。この生活班ごとに備品を手配し、同じサイトで過ごした。ブロックごとに生活班が生まれ、北海道・東北ブロックは1つの班だった。そのため岩手連盟から参加した3名は全員同じ班であった。

【班名】

はやぶさ班

※東北をつらぬき北海道まで進出した新幹線「はやぶさ」から

【班の構成】

岩手：3名

宮城：4名

福島：1名

※実行委員会に北海道1名、宮城1名。生活班ではない



はやぶさ班プラス北海道・宮城の実行委員

千田・加藤が東京在住、柳澤が青森在住ということで、班の備品は宮城のスカウトにたいへんお世話になった。2トントラックをレンタルし宮城県から全ての班備品を輸送してもらった。宮城県のローバースカウト達に感謝するとともに、今後何か機会があれば協力して活動していきたい。

2.2. 高萩スカウトフィールドの状況

茨城県高萩市にある、日本連盟の新たな野営場、高萩スカウトフィールドは、オープンから間もないため、まだ整備の途上にある。来年度は全部門を対象にした日本ジャンボレットが開催される予定であり、岩手連盟のスカウトが参加する可能性もあるので、野営場のクエスト実施時点での状況を説明する。

<サイト>

ロープで簡易的に分けられたキャンプサイトは、砂がかぶせられていて、雨が降るとかなり柔らかくなった。水はけは悪くないが、水路を自分たちで作ることが不可欠である。

<水場>

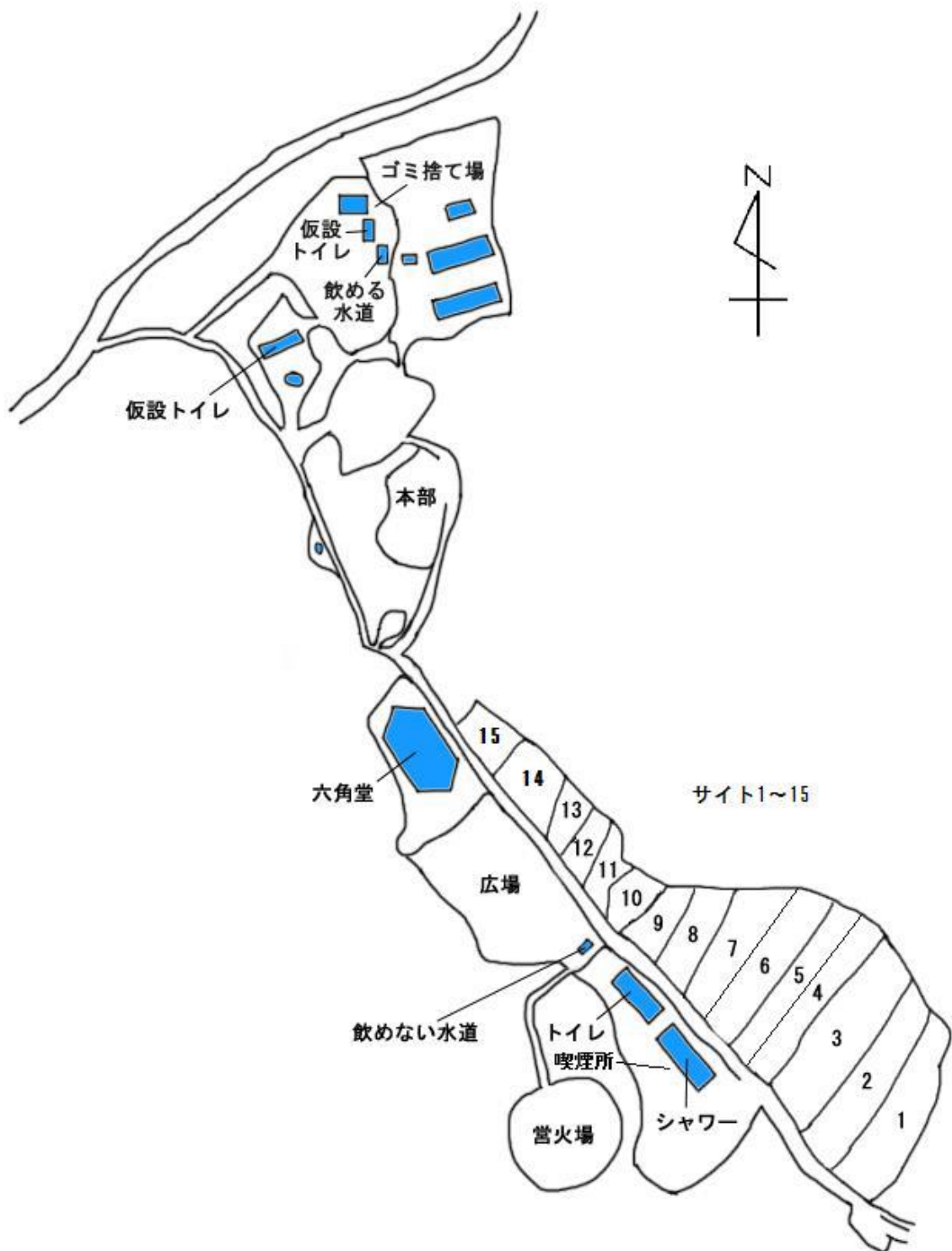
広場の水場はまだ飲用ではないため、北側の水場を利用した。サイトに戻る際は上り坂なので、台車がないとたいへん。

<トイレ・シャワー>

常設のトイレ・シャワーはまだ新しいので非常にきれいで使いやすかった。



会場図



3. プログラム

大会スケジュール

	9/17土(1日目)	9/18日(2日目)	9/19月(3日目)	
6:00				
6:30				
7:00		朝食・昼食配給	朝食配給	
7:30				
8:00				
8:30				
9:00		朝礼	朝礼	
9:30		開拓プログラム	撤営	
10:00				
10:30				
11:00				
11:30				
12:00	集合 バス乗車			閉会式
12:30				解散
13:00	受付開始			バス乗車
13:30				
14:00	開会式			
14:30	設営			
15:00				
15:30				
16:00	夕食配給	夕食配給		
16:30				
17:00				
17:30				
18:00				
18:30	オープニングナイト			
19:00		ローバーフェス		
19:30				
20:00				
20:30	班会議 班長会議			
21:00				
21:30				
22:00		班会議		
22:30		班長会議		
23:00	就寝	就寝		
23:30				

3.1. オープニングナイト

初日夜に広場・六角堂で実施された交流プログラム。
実行委員会によるムービーの上映や、有志による出し物披露があった。



3.2. 開拓プログラム

2日目のメインプログラム。

参加者全員が階段・看板・橋・国旗掲揚柱・ハイキングコースのどれかに配属され、生活班とは別に班を構成し、プログラムに臨んだ。





3.3. ローバーフェス

2日目夜のメインプログラム。

第1部では、同じまたは似たような趣味を持つ人で集まって、名刺を交換しながら語り合い、新たな友達をつくった。全国各地からのお土産のお菓子を食べながら、好きなことについて好きなだけおしゃべりする良い交流の場となった。



4. 感想

千田 恵

参加して、何よりもローバーの実行力と運営力に驚かされました。ベンチャーまでとは違った、ローバーにしかない力を感じました。特に実行力と自主性は私自身の今後の活動に向けて良い刺激となりました。1日目の夜から撤収の直前まで雨が降り、天候には恵まれませんでした。全国からの多くのスカウトと交流を深めることができ、記憶に残るキャンプとなりました。

開拓作業では、階段を作り、自分たちが作ったものが今後たくさんのスカウトに使われていくと考えると、嬉しく思います。また東北地方で構成された生活班では、普段スカウト活動以外でも東北の人と関わる機会が少ないため、余計に親しみを感じました。フェスなどの交流を通して他のスカウトの話を知ると、進学などで自団を離れても積極的に活動をしている人が多いと感じました。スカウト活動に関わり続ける方法は様々あるとわかったので、今後の活動の参考にしたいです。

そして、しばらく参加していなかったスカウト活動に再び取り組みはじめ、久しぶり(4年ぶり?)のキャンプを通してスカウト活動の楽しさを実感しました。活動に空白があったとしても、受け入れてくれることのありがたさも感じました。釜石2団・小平1団での活動は私にとって初めての経験ですが、様々な面で“開拓”をテーマに今後も活動したいと思っています。

柳澤 彩紀

この度実施された RCJ クエスト 2016 は、11 年振りのローバー年代における野営大会で、私にとっては 2 年振りのキャンプとなり、とても有意義な楽しい大会になりました。昨年の RCJ フォーラムで声があがってから一年、今大会の実現に漕ぎつけるには沢山の苦労があったことと思います。このような貴重な機会に、人脈を広げたり情報交換をすることで、活動の幅を広げられるのだと感じました。ネット上でコミュニケーションをとるよりも実際に生活を共にする方が信頼関係も結ばれ、今後につながる仲になれることは言うまでもありません。

サイトでは東北ブロックの参加者と過ごしましたが、様々な事情で中々一緒に活動する機会がなかったので、一つ一つが新鮮で、全員が楽しんでサイト生活を送ることが出来ました。テーマを体現するようなメインプログラムであった開拓プログラムは、生憎の雨天で変更点もありましたが、ブロック関係なしで集められたメンバーと一緒に体を動かして、野外活動を通じた交流を行うことが出来ました。ローバーフェスでは、趣味を通じた交流が行われました。プログラムの中で趣味の話をする機会というのは珍しく、自由度の高いローバー年代の活動だからこそ出来たことだと思います。

今大会は、昨年のフォーラム、クエストと全国区の活動が軌道に乗り始めている中で、私自身もどう活動していくか考えるいい機会になりました。クエストで得た人脈と経験をもとに、ここからまた自分の道を自分で拓いていけたらと思います。

加藤 大貴

まず、昨年度の RCJ 運営委員会の一員として、当時企画に携わったこの RCJ クエストというイベントが一切の事故無く終わったことを非常にうれしく思う。既に知り合いではあったが、これまで会議しか一緒にしてこなかったスカウトと、はじめてスカウトらしい活動をできたことが楽しくてしょうがなかった。やはりスカウティングの真髄は野外にあり、ということなのか。確かに昨年の RCJ フォーラムも充実したものになったが、楽しさが格段に違った。全員がローバースカウトであり、技術の指導に時間と手間を奪われないのも大きかった。

もしかしたら、スカウト活動を最も楽しめるポテンシャルを秘めているのはこのローバー部門ではないだろうか。とかく指導者の側面ばかり強調されがち・求められがちなの部門であるが、そうした責務を果たすという前提のもとで、これまでのスカウトとしての経験を踏まえて自分がやりたいことを追求できるというのは大きい。

しかし、全てがよかったわけではない。実行委員会の中には活動の運営を経験したことが無さそうな人がいた。逆に実行委員会に完璧であることを求めすぎたのかただの「お客様」と化している参加者も何人か見られた。トイレ・シャワーが泥だらけになっていたところを見ると全員がスカウトとしておきてを意識して行動できていたとは言い難い。ローバースカウトは、ある程度人間ができてしまっている年代であり、そうした根本の部分の教育はボーイやベンチャーで終えていてもらいたいという思いがある。

11年ぶりに実施できたこの野営行事を、次また途切れさせるわけにはいかない。持続可能性を意識しながら、次回大会に向けて、実施年度の RCJ 議長として次世代のサポートができるようにしたい。



開会式後に撮影した集合写真 (©ボーイスカウト日本連盟)

RCJクエスト 2016 in 高萩 参加報告書

編集：加藤 大貴（盛岡第5団）

執筆：千田 恵（釜石第2団）

柳澤 彩紀（盛岡第5団）

加藤 大貴（盛岡第5団）